

第23回 塾 (後編)



小学校時代を塾のないアメリカで過ごした孫たちが帰国して、塾ありきの日本の学校生活でどうなったのか、そして、それに対して親がどんな反応を示したかという活劇のはじまり、はじまりー

時はこの夏。ところは石垣島。私たち夫婦に加えて、長女一家と札幌在住の大学院生の孫娘との家族旅行でのことでした。30年前の石垣島の家族旅行では、遠浅の海底一面をびっしりと敷き詰めるウミウシ群に仰天するばかりでした。残念ながら今回の旅で目にしたのは、この面影が消えた観光地の賑わいでした。それでも、子供も孫たちも、インストラクターから本格的な指導を受けた初のシュノーケリング体験に大はしゃぎでした。石垣島ブルーマリンと、手の届きそうなところを悠々と泳ぎ回る魚たちにご満悦でした。テレビの自然番組やゲームの「どうぶつの森」でしか見たことがない「ナポレオンフィッシュ」が悠々と泳いでたっ！と大興奮でした。残念ながら年齢の上限規制で参加できなかったジジ・ババとその守り役の長女は、紫外線がたっぷり降り注ぐ海岸に腰を下ろし、遠くを進むシュノーケリング軍団を見守りながら、周りを飛び交う珍しい虫たちに目を細めて、研究を巡る四方山話に浸りました。



この旅のリーダーを務めたのが長女でした。この長女の成長についてはコラムでも度々取り上げてきました。その後、長女はアメリカの東部の大学でポスドクを6年ほど続け、2年半前に帰国し、今は札幌の大学・大学院で教鞭を取っています。彼女のアメリカ修行には夫と子供たちが同行し、海外生活に伴う幾多の、そして予告なく突然襲ってくる艱難辛苦にも猛然と立ち向かい、家族全員がそれぞれの得意分野で力を発揮して解決してきたようです。新型コロナのパンデミックも3人の孫たちは、それぞれのiPadを片手にon line授業を楽しんで難なく乗り越えたみたい。ビデオ通話で、その様子をちゃめっ気たっぷりに披露してくれました。そろそろ帰国と聞き、思い出したことがありました。当時小・中学生だった私たちの長男と次男は、2年間のアメリカ生活から日本に帰った時、日本の学校特有の同調圧力などの障壁にカルチャーショックを強く受けたせいか、「アメリカに帰る！！」と幾度となく吠えていました。同じ光景をこの

孫たちでも見るのか、と気を揉んだのですが、予想に反して杞憂に終わりました。帰国後に入った東京の小学校にはすぐに慣れて、学校生活をエンジョイし始めました。この違いは、30年前にあったアメリカと日本の学校生活の差異が縮んだことによるのかな?! 長女は渡米前に勤めていた東京にある大学にポストドクのまま戻り、彼女の夫は薬剤師に復帰しました。そうこうして1年ほど過ぎた頃、「一生ポストドク」を目指していた長女がようやく正規の教員として就職。子供たちは友達との別れが辛くて涙を流し流し親に付いて札幌に転校となりました。私のわずかな経験からのことですが一言言わせてもらいます。「艱難、汝を玉にす」は正しい(ハズ)。孫たちを筆頭に彼ら一家のレジリエンス値は、このアメリカ生活から始まる一連の経験でとても上がったと思うよ。

そんな長女夫婦も自分たちの子供のことで、弱音を吐いたことがありました。長女一家と一緒に遊ぼうと札幌に滞在していた去年の暮れのことです。長女夫婦が、三者面談で中学校の担任の先生から

「このままでは、ご子息は札幌の公立高校には合格できません」と宣告されたのでした。

「塾に行かせた方がいいのかなー?」、と私たちにボソッとつぶやいたのでした。

いやいやちょっと待って。前の晩の酒盛りでぼやいていたやん。「最近の学生や大学院生は講義中であれ、実習中であれ、質問せえへん! 私らの時とはぜんぜんちゃう!」とか、「疑問を持っても、自分で解決方法を考えへんし、調べへん!」とか。こうも説明してたよね。「こんなになったんは、子供の頃からずっと学校や塾で正解のある問題を解く訓練を受け続けたせいとちゃうんか?!」と。そうや、分かってるんやったら、親の勧めで子供を塾に通わせるのはやめてとお願いをしたのでした。



長女は、志望高校の入試合格率の予想が20%以下のE判定だったのに、私たちが勧めても、頑として滑り止めの私立高校を受験しませんでした。そんな子が、自分の子供が高校に受からないと聞くとオロオロするのはです。私たちは、アホやなと思いながらも、ほほえましい気分になりました。

こんな教育談義があった半年後の石垣島旅行でのことです。突然、当事者の孫が嬉しそうに「この春から学校で習う勉強を真面目に復習して、テスト勉強もちゃんとやってみたのだ。それでどうなったと思う? 一学期のテストの点数がどうなったかわかる?」と質問攻めです。

聞くと、点数が予想外に上がったようで、ご満悦でした。

この孫は、アメリカにいた頃は、隣の州に住みこの秋から州立大学の一年生になるゲーム大好き・パソコン自作派の従兄弟に憧れて、ゲームに明け暮れ、今に続いています。



この孫、長女に似たのか、ジジに似たのか、興味があることにしか労力を使わない省エネマンです。興味のない話題になると、途端に省エネモードに切り替わって眠り込みます。中学校の授業はどうも面白くないようです。この孫はもう一つの特性も受け継いでいるようです。ババの母、ババ、そして長女と3代続く「標的を見つけるや、周りの状況を見捨てて猪突猛進して標的を手に入れる」という特性です。「このままでは高校に受かりません」と聞いてショックだったのか、彼は先生や父親から札幌にあるいろいろな公立高校の情報を教えてもらい、自分でも高校のホームページを見たりして、行きたい高校を見つけました。その高校に入るためには中学校の成績が良くないとダメだと知ったとたん、中学校の勉強を猛然と始めたようです。来年も続けているかな？（今のところ）塾の話は消えました。

ババ馬鹿なお話で、お粗末さまでした。

